

「みょうばん湯の里」の湯けむり



平成 24 年 9 月 19 日指定

明礬・鉄輪温泉地区

全国一の湧出量を誇る温泉のまち別府では、地域の生活や観光事業など様々な方面で温泉を活用しています。

その結果、市内各地で目にする湯けむりに、山や海などの自然環境や、湯の花づくりに用いられる湯の花小屋などが背景となって、独特な景観をつくっています。それを最大限に生かしつつ保存し、地域の誇りを後世に受け継いで

いけるよう、重要文化的景観の選定を受けました。

「温泉」という地下資源は、観光や地獄蒸し、湯の花製造のなかで形成される景観であり、

自然資源に対して人間が働きかけを行ってきたことを象徴する景観とも言えます。

「みょうばん湯の里」の湯の花



平成 18 年 3 月 15 日指定

明礬温泉湯の花製造技術保存会

「湯の花製造技術」とは、明礬温泉で江戸時代より行われている湯の花の製造技術のことで、湯の花小屋という特殊な製造施設をつくり、その内部で温泉の噴気と青粘土を利用して結晶化させ、湯の花をつくりだすという技術のことです。

明礬温泉は一帯が地熱地帯で、随所に温泉の蒸気がみられます。現在の製品である湯の花は、寛文 4 年(1664)には「豊後ミョウバン」として造りだされており、享保年間(1725～)には全国一

の生産量を誇っており、当時ミョウバンは止血剤など薬として、また染色剤、顔料、皮なめしなどに利用され人々の生活に密着したものでした。

全国に数ある温泉地の湯の花は、多くが温泉の沈殿物を採取したり硫黄の塊を粉末にしたものですが、明礬温泉の湯の花は、小屋方式で製造する世界唯一の技術です。

「入浴剤 薬用湯の花の効能」…あせも、うちみ、肩こり、くじき、神経痛、しっしん、しもやけ、
医薬部外品 痔、ただれ、たむし、冷え性、水虫、腰痛、リウマチ、かいせん



『みょうばん湯の里』では、平成 20 年より毎年別府市教育委員会と協力して、別府市内の小学生を対象とした薬用湯の花についての体験学習「湯の花こども教室」を開催したり教育旅行を受け入れたり、別府・湯の花の普及に力を注いでいます。